

鵜川・ピリカ・プロジェクト

～美しい川をめざして～

「ピリカ」とは、アイヌ語で「美しい、良い」などを意味する言葉です

第4回 「鵜川・ピリカ・プロジェクト」が開催されました。

～美しい川をめざして～

平成19年10月25日(木) 18:00より、第4回「鵜川・ピリカ・プロジェクト」として「防災」がテーマの会議を開催し、室蘭工業大学 藤間教授による講義の後、意見交換を行いました。14名の委員が出席しました。

講義内容(抜粋)

1. 近年の洪水被害の特徴と課題

- * 災害の発生要因として、集中豪雨の多発や地域の共助体制の弱体化、また、避難勧告に対して素直に避難する人が減少したなどがある。
- * 日本は大陸の端に位置し、地震が多く津波にも襲われる。台風はサイクロンやハリケーンと比べ発生回数が非常に多く、大部分が日本へ向かってくる。今後、その規模や上陸回数は地球温暖化により増加することが予測できる。
- * 日本と世界の大河を比較すると、流量規模はほぼ同じだが、降雨後の流出までの時間が極めて短く、急勾配で同じ流量を流す大変な河川である。

2. ハザードマップの作成

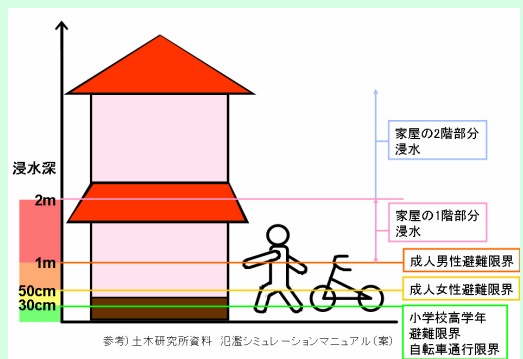
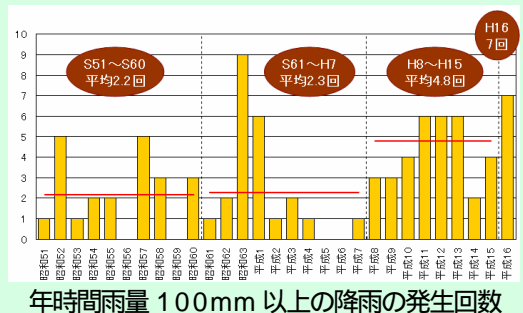
- * 室蘭市のコイカクシ川を例に解析手法を説明。

3. 避難勧告・指示および洪水避難の問題点

- * 行政の言葉は専門的で難しい。
- * 子供や高齢者が避難できる水深は、30cmが限界。
- * 高齢者の避難支援について、個人情報保護法によりリストの作成・配布ができないため、町内会が非常に大きな意味を持つてくる。
- * 避難開始の伝達も、サイレンや広報車では、激しい雨音や2重窓により聞こえづらい課題がある。
- * 人間は1次情報と2次情報より避難を判断する。さらに、異常性を正常と考えてしまう正常性バイアスにより、避難するかどうかの判断が分かれる。
- * 行政(国、道、町)と住民、専門家が連携して、公助、共助、自助の3つが協力することが一番大切である。



藤間教授の講義の様子



浸水深と避難限界

人はなぜ避難しないのか

- ☆ 人は危険に直面しても感知する能力が劣っている。
- 避難勧告、避難指示が出ても避難する人は驚くほど少ない。
- 避難率が50%を超えることは殆どない。

これは人間の心の働きによる。
外界の変化にいちいち反応しない。

人はなぜ避難しないのか

意見交換(抜粋)

- * 災害は予測を超えた時に起こる。予測は外れるものだと理解し、情報の重要性を認めることが必要。
- * むかわ町中心に勉強会や具体的な目標を想定した避難訓練を行って欲しい。専門用語は簡単にして欲しい。
- * 子供が受けた防災教育に対して、大人は素直に子供の話を聞いてほしい。
- * 大正 13 年ではむかわの市街地がほとんど水没した。むかわ町の心臓部をどう守るかが重要な課題。
- * 平成 15 年台風 10 号では堤防の上の方まで水が上がった。満潮であれば堤防が決壊したかもしれない。
 - > 自治体の防災専門官が足りない問題もある。ハザードマップは満潮時を考慮して作成している。
- * 鶴川では、低い土地は水害、高い土地は山崩れの危険がある。危険を未然に防ぐには。
 - > 穂別地区は土砂崩れが多く、平成 4 年洪水では、町は孤立してライフラインも切れた。このような災害の経験が無く、何から手を付けてよいか分からず、また地域からの情報も入ってこないため、パニックになった。地域の中心となる人も自分の家を守るのに精一杯で、高齢者への対応は困難だった。
- * 住民はなかなか避難しない。現状の避難場所は災害時が想定できていない。地域に防災の中心人物が必要。
- * ハザードマップが配布されても見ておらず、災害時は誘導しなければ動かない。避難所の見直しはどうか？
 - > 防災計画を見直しており、避難所の入れ替えもあると思っている。
- * 夜間の豪雨では動かないほうが良いと考えがちだろうし、予測ができないとつらい。
 - > 具体的な避難訓練等から、現実的な対策が見えると思う。
- * ハザードマップは避難ルートまで記載することが望ましい。問題点を明らかにしながら、地域独自のハザードマップができればよい。
- * 室蘭のハザードマップを見て感動した。むかわ町でも同様なものがあるのだから、あとは啓蒙が必要だ。
- * 水深 50cm くらいなら避難できるという感覚があるのでは？
 - ・ ハザードマップの計算時に流木の堆積などは考慮されているのか？
 - > むかわ町では現在は洪水のみ。ゆくゆくは土砂の災害までのハザードができればよい。
- * 昨年 8 月洪水では、生田小学校への坂道を車が通れなくなり、停電で水が使えなくなった。避難所として疑問がある。



意見交換の様子

メモ意見(抜粋)

- * むかわ町でも、室蘭市同様に防災委員会のような建設的な意見を吸い上げる体制があればよい。
 - ・ この会議を拠点として、むかわ町への発信の場となるとよい。
- * 今後 100 年で集中豪雨が増えるとのことだが、防災能力が減少しているのは不安だ。
 - ・ 日頃の情報交換が重要。行政は対応しきれない。
- * この頃の雨や風は激しい。災害は常にあると考え、常に意識していくように啓蒙をお願いしたい。
- * 町内会との連携が大事。個人情報との関連が難しい。雨が降るとサイレンなどが聞こえないのは大変？いかに正しい情報を受けて避難するかが大変だと思う。
- * 50 年、100 年という時間で防災を考えなければならないのに、実生活の中ではほとんどの人がそれを意識できていない。危機意識を持ちにくい。実感が無い。教育現場ですることは？
 - ・ 水の移動はとても速い。個人の判断を早く、行政の指示を待ってられない。
 - ・ 安全で近い避難場所の確保が必要。生田小は遠く、大雨時に車で登れず、停電して水が使えなくなる。
 - ・ 小学校教育でできることは？意識改革の一步 情報の理解。避難して何も災害が無かったら「よかった」と考えられる気持ちを学ぶ。親がきちんと子供の話を受け止める。
- * 本格的な防災についての講義は初めてで有意義。
- * 自治会や町内会の会員にも個人情報保護法への誤解、無理解があり、高齢者の把握が難しい。町内会の役員を行っているが現実的に・・・。災害は人的なものだけではなく流れの終末は海である。